



アフリカ日本協議会 (Africa Japan Forum)

2022年度 活動報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

アフリカンキッズクラブ

アフリカルーツの子ども・ユースが集い、楽しみ、経験や思いを共有する

01



11月のアフロダンスクラスは、AKC関西により大阪の会場とオンラインの両方で実施し、会場には50名が参加、元気いっぱいに交流できた

アフリカンユースミートアップ (AYM) では、ユースによるショートフィルムの制作および上映イベントの開催をサポート。また、ユースが選んだ映画を観ながら交流する「MOVIE DAY」を実施しました(9月)。

5つの大学でゲスト講師として、ユースたちが経験や思い、マイクロアグレッションなどについて同世代の人たちに話し、意見交換や交流することができました。また、70代のブラックミックスの方たちと交流し、歴史を学びながら、経験や生き方について話し合いました。

レイシャルプロファイリング(警察による職務質問)、仮放免者の立場など自分たちの経験に照らし、社会を変革していくことに取り組みました。

アフリカにルーツを持つ子どもたちが集う場としてアフリカンキッズクラブ (AKC) を運営し、多様なアフリカの文化に触れ、交流するイベントを実施しました。アフロダンスのクラスを継続して計5回実施(5月、7月、9月、11月、2月)。ダンス後は子ども同士が話す時間を設けて交流できるようにしました。町田国際交流センターのイベント(1月)でもダンスを披露しました。

また、LINEも活用し保護者同士で相談・情報交換を行ったり、6月には「ユースと話すママ会」を開催しました。



6月に開催の「ユースと話すママ会」では、親子の関係や髪のカケアなど、ユースの意見や経験を聞くことができた

02

在日アフリカ人との連携・支援

アフリカにルーツをもつ人びとが安心して生活できる社会を実現する

「なんみんフォーラム」や「移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)」と連携し、生活に困難を抱える難民・移民への支援、アフリカ各国の情勢等について他団体への情報提供、政策提言、アフリカ理解を促進する活動を行いました。また、アフリカ出身の難民の方による**ゲスト講義**を2つの大学で行い、学生の理解を深め、交流しました。

難民・移民フェス(6月、11月)の協力団体として、アフリカ出身の難民・移民の方たちの出店をサポート。その他、在日アフリカ人の活動に場の提供や広報協力をしました。また、慶應義塾大学のボランティアサークルと連携し、難民の中学生の学習をサポートしました。

公正な医療アクセスの実現を焦点に、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、非感染性疾患、パンデミックへの備えと幅広く対応しました。

AJF共同代表の稲場雅紀が有識者として取り組んだ、政府の「**グローバルヘルス戦略**」が5月に決定。戦略実施のために国内外の関係団体とさらなる連携・協力促進の必要があります。

グローバルファンドの第7次増資に向けた政策提言では、主要ドナー国の駐日大使館への働きかけ、国会の院内集会の開催、参院選に向けた各党マニフェストの分析結果の公表等を行いました。G7諸国の多くが、拠出誓約を増額。日本は28%増の10.8億ドルの誓約を発表しました。

また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現や三大感染症対策の促進に向けた政策提言を進めるため、アフリカの「必須医薬品アクセスネットワーク」（RAME）や「東アフリカ地域全国エイズ・サービス組織ネットワーク連合」（EANNASO）と調査を行い、その結果と提言書を、TICAD8サイドイベント（8月）で発表しました。

事務局を務める「**新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！**」連絡会を通じ、関連医薬品の知的財産権の一時免除を求める国際的な運動に参加。しかし、6月に世界貿易機関（WTO）閣僚会議で採択された妥協案は、医療アクセス格差の解消につながらない内容で、今後は「パンデミック条約」策定・「国際保健規則」改定の多国間交渉、「ACTアクセラレーター」（COVID-19関連製品アクセス促進枠組み）の後継枠組み作りへの働きかけを行う予定です。

アジア太平洋資料センター（PARC）と協力し、知的財産権と医療アクセス格差の問題を扱う映像作品「**新型コロナが映す いのちの格差—公正な医療アクセスを求める世界の市民社会**」を制作。上映会を開催しました。理解を深めるツールとして国内外で上映の機会を増やしていきます。

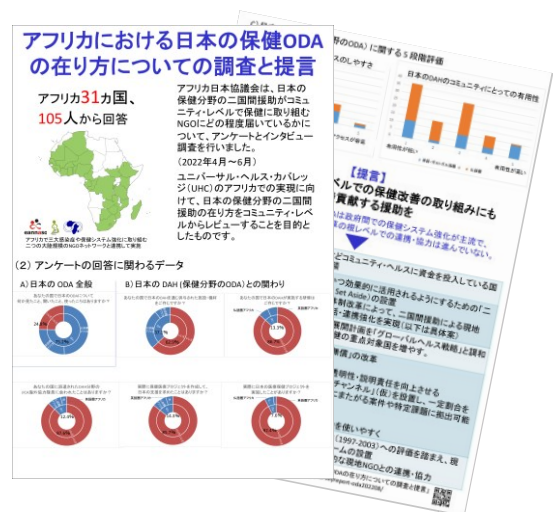
アジア太平洋地域で活動するネットワークAPCASO（旧・アジア太平洋エイズ・サービス組織評議会）と連携し、**東アジアの国際保健アドボカシーに携わる市民社会組織のマッピング調査**を開始。連携強化をめざします。

2023年5月の**G7広島サミット**に向け、国際保健政策に市民社会の
声が反映されるよう政策提言のための取り組みを進めました。1月
に公式エンゲージメント・グループの一つ「Civil7」の「国際保健
ワーキンググループ」を設立。2月には海外の有識者・活動家を日
本に招へい。関係省庁への働きかけや「新型コロナが映す いのち
の格差」上映会、政策提言ネットワークの国際会議への参加を行
いました。

メールマガジン『グローバル・エイズ・アップデート・プラス』を毎月発行し、国際保健政策の最新情報などを伝えました。



他団体とともに院内集会を開催。日本政府がグローバル・ヘルスへの取り組みを強化し、資金を増やすよう求めた



アフリカのネットワークと連携して日本のODAの在り方について調査を実施。草の根のNGOらに届いていない実態が判明した



2023年1月に開催した映画「新型コロナが映すいのちの格差」の上映会ではオンラインも合わせて100名以上が参加

映像作品はDVDとしても販売される

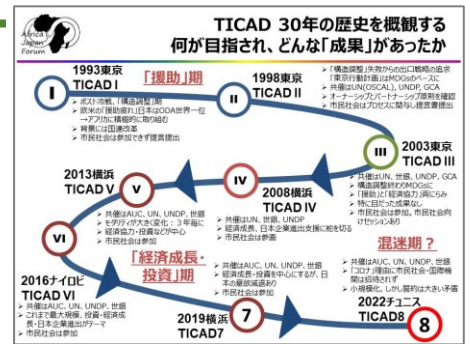


TICADおよび日本の対アフリカ政策への提言活動 04

市民社会として、アフリカの人びとの声を届ける

設立当初より取り組んできたアフリカ開発会議（TICAD）への政策提言、および、アフリカと関連する政策に関して提言活動を行っています。2022年はTICAD開催年で、「TICAD-NGO連絡グループ」事務局としてアフリカおよび日本の市民社会側の調整業務を担いました。しかし、3月の閣僚会合、8月のチュニジアでの本会議では、市民社会の参加は認められず、オンライン配信も会議の一部にとどまりました。日本のNGO間では政策提言の場としてのTICADの重要性が低下しており、政策提言の内容と方法、市民団体の連携について2025年のTICAD9を見据えて検討します。

西サハラにTICAD参加に関してサハラ・アラブ民主共和国（RASD）政府やアフリカ連合（AU）との連携を担当する市民団体と協力し、情報収集を行いました。2023年度のG7サミットの機会に、西サハラに関する啓発活動やユースの招へいイベントに協力する予定です。その他、主権や自己決定権を求めて活動する人々に協力し、その実現に取り組みます。



10月にウェビナー「市民社会不在のTICAD8ーその内幕を探るー」を開催。TICADの歴史を振り返りつつ、その課題を指摘した

05 アフリカの食料と農業

農民の生活と飢えの仕組みを知り、ともに考え、行動する

食と農の課題について調査や研究、意見交換を行える場をつくり、世界および世界とつながる国内の食料課題について理解する人、行動する人が増えること、日本語でアクセスできるデータを増やすことを目的に活動しています。

2022年度はFAOの資料を読む学習会で資料の翻訳を進めつつ、アフリカから帰国した人から食料事情を学ぶミニお話を開催しました。また、「世界食料デー」月間の呼びかけ団体として他NGOやFAOと協力してチラシ作成、3回連続のプレイベント開催、横浜市との共催セミナーの開催等に協力。食料問題についての理解と関心を深めました。

ほか、南アフリカでの土壌含有リン調査に協力し、2023年度も継続予定です。



「世界食料デー」月間のイベントはグラフィックレコーディングを導入し、ウェブサイトで報告レポートともに掲載した

熱帯林と野生生物保全

アフリカ熱帯林と野生生物の課題について発信する

アフリカ熱帯林の課題に関して、現地のNGOと連携し、情報提供を行うとともに、現地野生生物保全や日本国内の啓発活動を積極的に進めています。2022年度はヨウム保全チラシの改訂・増刷・配布、11月に多摩動物公園で開催された都立動物園アフリカフェアへの出展や、3月に広島市安佐動物園で行われた西原智昭氏の講演「野生のマルミゾウのいま」の後援などを行いました。

2023年度は、AJFに寄付されたヨウム保全基金をコンゴ共和国に送り届けるなどアフリカの野生生物保全や、日本国内の啓発活動を積極的に進めていきます。



（左）多くの人が訪れた多摩動物公園でのアフリカフェア（右）広島での講演会の案内チラシ



06

07 アフリカ理解促進

アフリカから学ぶ、考える、発信する

アフリカをとりまく環境の変化と課題についての理解を促進し、AJFの活動の基盤強化を目的に、会報『アフリカNOW』を3回発行、メールマガジン『AFRICA ON LINE』を毎週配信しました。アフリカに関する日本語のニュースの収集・アーカイブ化をインターンの協力のもとで進め、メーリングリストやウェブサイトで月1回発信。アーカイブ化は立命館大学生存学研究所と連携しています。12月の会員交流会では、インターンが「今年もっとも気になった記事」を紹介し、活発な議論・交流を行いました。その他、セミナーの開催や10月のグローバルフェスタJAPAN2022など国際協力関連のイベントへの出展、他団体とともに「アフリカの日」の声明の発表などを行いました。



2022年8月、11月、2023年3月に発行



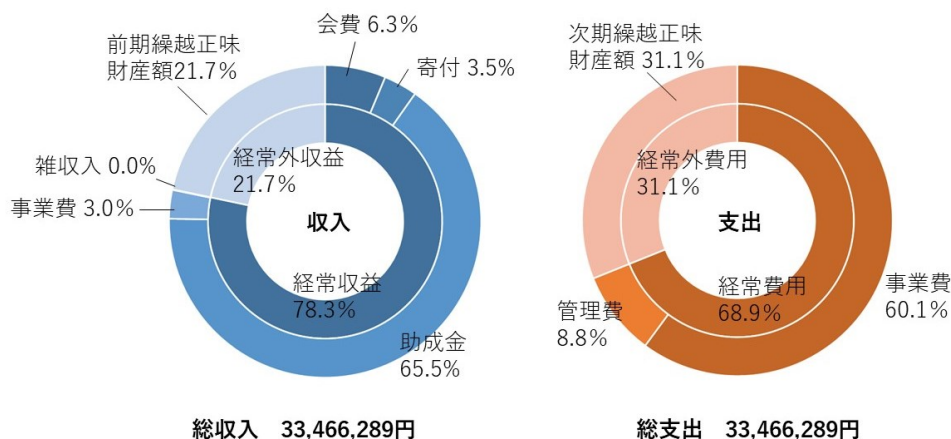
グローバルフェスタでは団体と活動について説明。クイズやゲームなどでも交流した

事務局運営 (事務局体制：フルタイム4名、パートタイム3名)

理事会の開催(5月、6月、9月、12月、2023年2月)のほか、理事の有志からなる会員財政委員会、事業委員会、広報委員会、倫理・危機管理委員会、執行体制検討臨時委員会を開催し、事務局の運営をサポートしました。

(正会員個人226名 正会員学生 3名 正会員団体 1団体 賛助会員 33名 賛助団体 1団体 マンスリーサポーター 8名)

2022年度 会計報告



アフリカの人びとと共に活動する仲間として、AJFの活動を支援してください

入会

AJFの会員になって、アフリカとのネットワークを広げませんか？ 学生やアフリカに関心を持ち始めた方も歓迎です。



AJF入会案内

寄付

あたたかいご協力をお願いします。

以下のいずれかの口座にお振り込みください。クレジットカードの場合は右記QRコードから、<https://ajf.gr.jp/donate/>からアクセスしてください。

【郵便振替】00120-3-573276 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

【銀行口座】三菱 UFJ 銀行上野支店(普) 5305887 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

※銀行口座への振り込みの場合は、info@ajf.gr.jp までご連絡をお願いします。



AJF寄付ページ

NPO法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階

E-MAIL : info@ajf.gr.jp / TEL : 03-3834-6902

<https://ajf.gr.jp/>



<https://www.facebook.com/Africa.Japan.Forum/>



https://www.instagram.com/africa_japan_forum/



<https://twitter.com/AfricaJapanF>